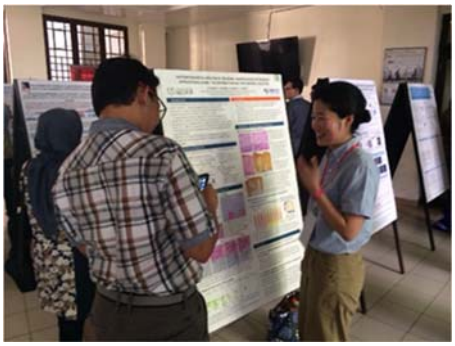
鳥取大学配属２年生　富田　凪

若い。そして女性が多い。シンポジウムでステージに並ぶインドネシアの各大学の獣医学部長を見た時の第一印象だ。インドネシアは近年急成長している国の一つであり、国の発展を支えるために獣医学教育・研究の充実に力を入れている。しかし、インドネシアの大学には博士課程がなく、博士号取得のために海外の大学に留学する必要があり、それは非常に狭き門なのだそうだ。そのチャンスを待ち続けいている学生が大勢いることを知った。彼らと話す中で、私が博士課程の学生であると伝えると「君はとても lucky な環境にいる、羨ましい。」と言われることが多々あり、私は今の環境の有難みを知るとともに若干の後ろめたさのようなものを感じた。大学の研究設備や人材など、欠けている部分や未熟な部分はあるけれども、それを上回るエネルギーと勢いがインドネシアにはあった。この謎のエネルギーは、バスの窓からジョグジャカルタの街を眺めているときにも感じた。強い日差し、ひどい渋滞、ひしめき合うバイク(基本的に 2 人乗り、時には 1 台のバイクに家族全員で乗っている)、クラクション攻撃、物売り、道路脇の果物屋、スコール。このような国の学生が日本で学び博士号を取り自国に帰ることが、インドネシアだけでなく日本の獣医学教育・研究にも明るい勢いと厚みを与えるのではないかと思う。



ポスター発表の会場にて

シンポジウム後のツアーで
ボロブドゥール遺跡へ。